

# メタル (アナログ) 電話回線終了に伴い、出版VANが使用なくなる

現在では、電話といえばIP電話を意味するくらい普及が進んでいる。ところが出版VANでは、メタル(アナログ)電話回線でなければ動作しないため、今でも使用されていて出版業界のインフラとして不可欠のものとなっている。

NTTの発表では、2024年1月よりメタル(アナログ)電話をメタル(アナログ)IP電話に移行すると発表し、出版社へも今年3月ころより案内が届き始めている。総務省の2017年発表の資料でも2024年よりメタル(アナログ)IP電話への移行スケジュールが発表されている。

このままでは、メタル(アナログ)電話回線を利用している出版VANが使用なくなることになる。

そこで、移行への対策を考えてみると3つほどの方法が考えられる。

1. 通信ソフトとモデムの変更及びプロトコルコンバータの追加を出版社とサーバ管理の富士通エフ・アイ・ピー(FIP)双方で規格統一して導入する。しかし双方に高額な費用負担が発生してしまう。

同時に発生する問題はIPパケット化処理が追加されるため、通信時間が今より遅くなってしまうと予想される。(方式別のテスト結果報告では2~3倍遅くなる例もある。)

2. WEB-EDIを利用する。

富士通エフ・アイ・ピー(FIP)での費用発生は無いし、通信も高速となる。しかし、ブラウザを利用した手動が基本のため、自動化を解決する必要がある。また、データの取扱い(発注、出荷、在庫、返品、直受注)対応にシステム変更が必要となり、費用、仕掛時間も出版社に大きな負担になることが予想される。

3. インターネットEDIに移行する。

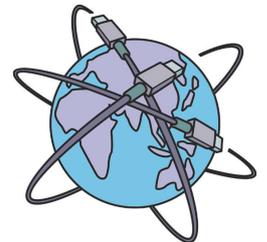
世界標準として推奨されていて、普及が推奨されているが、取次、富士通エフ・アイ・ピー(FIP)、出版社でのシステム対応が必要となり、費用、仕掛時間も大きな負担になり出版業界での実現は難しいと思われる。

上記以外の方法(FIPのサーバにSFTPなどで直接アクセスするなど。)も考えられるが、現状システムを最大利用する、1を選択したとしても相当の工夫が予想される。

業界の将来がかかる重要なインフラの方式選定により、出版社のシステム変更が予想されるため、早期決定が重要になることは言うまでもありません。

追記

インターネットEDIに移行の場合を除き、メタル(アナログ)電話回線を使用していない、取次、出版社などには影響がない。



2019年5月7日

株式会社 システムYAMATO

代表 大和 恒夫